

連携中枢都市圏の形成に向けて

1 ビジョン策定の趣旨

現在、わが国は、人口減少の危機に直面しており、青森圏域も例外ではなく、出生数の減少や人口流出が続き、平成 30 年 3 月の国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によれば、平成 27 (2015) 年の 310,640 人から、令和 27 (2045) 年には、約 11 万人減少すると推計されています。

人口は都市や地域の力の源であり、今後、人口減少・少子高齢社会においても、活力ある地域社会・経済を形成するとともに、住民サービスを維持していくために、連携中枢都市圏を形成し、「圏域全体の経済成長のけん引」「高次の都市機能の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に取り組むことで、本圏域の結びつきを更に強め、圏域の特徴を最大限に生かし、人々が誇りを持って住み続けたいと思える魅力ある都市圏の形成を目指します。

本ビジョンは、こうした都市圏の形成に向けての指針として、圏域が目指す将来像とその実現に向けて構成市町村が連携して進める具体的な取組を取りまとめたものです。

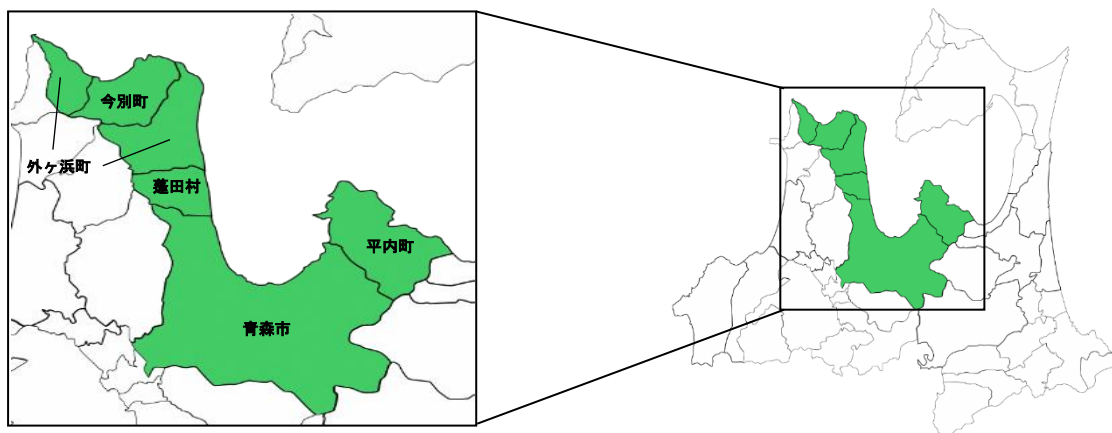
2 連携中枢都市圏の名称及び構成市町村

(1) 連携中枢都市圏の名称

青森圏域連携中枢都市圏

(2) 連携中枢都市圏を構成する市町村

青森市、平内町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村



3 具体的取組期間

本ビジョンで示す将来像の実現に向けた具体的取組の期間は令和 2 年度から令和 6 年度までの 5 年間とします。

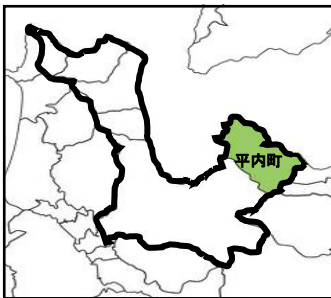
4 構成市町村の地域資源等

(1) 青森市



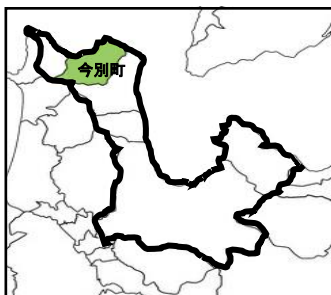
○青森県の県庁所在地で、青森県のほぼ中央に位置しており、八甲田連峰や梵珠山などの美しい自然、三内丸山遺跡や浪岡城跡などの歴史遺産、浅虫や八甲田山麗をはじめ市内に点在する豊かな温泉、りんごやホタテ・カシスなどの優れた食材、そして世界に誇る「ねぶた祭」など、本市特有の魅力的な資源に恵まれた、港まち・商いのまち・交通の要衝として発展してきたまちです。

(2) 平内町



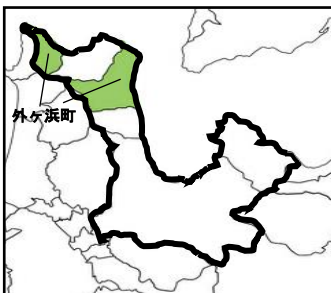
○青森県のほぼ中央に位置し西は県都青森市、東は野辺地町に隣接し、陸奥湾に突き出した夏泊半島には特別天然記念物「小湊のハクチョウおよびその渡来地」浅所海岸や天然記念物の「ツバキ自生北限地帯」を有する椿山など風光明媚な町です。基幹産業は、水稻を中心とした農業と養殖ホタテの漁業で、特に養殖ホタテの生産量は日本一を誇る「ホタテの町」です。

(3) 今別町



○青函トンネル本州側の入り口があり、新幹線の駅がある町としては日本一小さい町です。今別町は、幻の黒毛和牛と言われる「いまべつ牛」や津軽海峡にもまれた天然もずくを練り込んだ「もずくうどん」といった食、柱状節理が珍しい津軽国定公園袋月海岸「高野崎」といった景勝地、毎年たくさんの若者が集い、町の郷土芸能「荒馬」が町内を力強く練り歩く「荒馬まつり」など、たくさんの魅力あるまちです。

(4) 外ヶ浜町



○青森県津軽半島の中央部の蟹田町、平館村と半島最北端の三厩村が合併し誕生した町で、国内最古級の縄文遺跡の大平山元遺跡や、藩政時代の名残を残す平館台場跡、津軽海峡を望む龍飛崎など、雄大な自然と歴史文化を感じる観光資源や、海と山と川の恵みとともに生きる町であり、陸奥湾のホタテや、津軽海峡のホンマグロなどの魅力的な食材の宝庫です。

(5) 蓬田村



○南側を青森市、北側を外ヶ浜町と接し、青森市の中心部までは約20kmと近距離に位置し、空港や新青森駅までの道路交通網の充実が図られており、陸奥湾、大倉岳の裾野に広がる豊かな自然のなかで稲作やトマト、ホタテを中心とした農漁業が盛んに行われています。また、夏には玉松海水浴場においてビーチバレー大会や玉松海まつりが開催され、多くの人で賑わいます。